vol.556

“高品質力、信頼性、情報性マック”
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆ 2019年12月11日発行ラインナップ
・トモエ化成誕生100周年記念
・2020年東京オリンピック
マラソン・競歩の札幌開催

トモエ化成誕生100周年記念

11月27日、東京ドームホテル（東京・水道橋）にてトモエ化成誕生100周年記念式典が開催され、トモエ肥料販売協同組合連合会の全国5組合65名を始めとした販売関係者総計119名が出席し、盛大に催された。トモエ化成は生みの親である鈴木千代吉氏が明治43年（1910年）に「天地配合肥料」を発明（特許18764号）し、その特許に研究改良を加えて大正8年（1919年）に「トモエ特許肥料」を開発、同年に大日本特許肥料株式会社が創設され翌年より販売開始された。大正8年と言えば第一次世界大戦終結のためのヴェルサイユ条約の締結、国内では選挙法改正や女性解放運動が展開され、同年は国内外でも激動の年でもある。

開会の辞として同販売協同組合連合会の五十嵐理事長より、トモエ化成の元売商社とメーカーの変遷やトモエ肥料販売協同組合発足の経緯、独自調査による残っている書籍によればトモエ化成は日本で初めて製造された化成肥料であるという史実が披露され、結びとして次の100年に向けて三位一体となって今後とも繋いでいく決意表明がなされた。来賓者挨拶として三菱商事（株）農業ソリューション部の宮澤部長からは、100年続いているロングセラー商品はみなさんが良く認知しているものでリピートが続いているものだとし、トモエ化成も機能性肥料として農家の方々より効果が認められて今日を迎えた事に対し敬意を表された。続いて、トモエ化成メーカーのエムシー・ファーティコム（株）石黒社長、最後に弊社社長の上西よりり祝辞が送られた。

続いてエムシー・ファーティコム（株）開発本部の佐野つくばセンター長より「トモエ化成の100年　歴史とこれから」と題して講演がなされた。佐野氏からはトモエ化成の誕生からの現在に至るまでの年表と特許肥料生誕秘話の説明がなされた。いわき工場にある資料室にて保存している過去からのチラシや肥料袋の紹介、トモエ化成の製造工場の変遷が紹介された。トモエ化成も発売当初は売れずに苦労したこと、元売商社として小西安兵衛商店（現在の小西安農業資材）が取扱いしたことで販売網が整備され拡販につながっていった歴史が紹介された。トモエ化成の特徴として現在では当たり前のように語られている複塩（窒素・リン酸・加里・石灰等が科学的に化学合成した肥料）、副成分の石膏、更にはトモエ化成の最大の特徴でもある当時石灰窒素変生物の存在が明らかにされていない時代には「補助成分は炭化物であって土壌の酸や種々の毒素を吸収して堆肥の如き働きをする」として説明されていた記録が紹介された。当時は分析技術が伴ってなかったためであるが、トモエ化成には一般の低度化成とは異なる肥効や物質が存在しているであろうことはわかっていたのだがこのような言葉で表現していたことはとても興味深い。また、工場を東京の中川から現在のいわきに移転する前と現在ではトモエ化成の製法が少し異なるようだが、旧製造法と現製造法で作られた新旧トモエ化成のコシヒカリの収量比較試験においては現製造法で作られた方が収量は良い結果となっており、これも時代の変遷とともにトモエ化成がバージョンアップしている事を伺い知る事が出来た。最後に話題として近年聞かれるようになった硫黄欠乏があげられた。低度化成発売当初から硫酸根肥料は根の発育障害や土壌

（次ページへ続く）

（次ページへ続く）

の酸性化、秋落ちの要因として作物の生育に対して悪ともされていたが、現在では塩安系肥料を長年使用しているところで水稲においては初期生育の不良による硫黄欠乏が出やすくなってきた環境となっているとの指摘がある。現在のトモエ化成は硫黄が石膏の形で含まれている事から安易に硫酸だけが残る事はなく、硫黄の供給も出来る土や根に優しい肥料として土や根に優しい肥料と言えるとして低度化成が見直されるのではないかと示唆された。最後に昭和10年に帝国発明協会全国優秀賞の受賞記念として揮毫されたエムシー・ファーティコムの社是ともなっている「事人尽命天従」（天命に従い人事を尽くす）が紹介されトモエ化成が営々と続きますようにとしめられた。

記念講演では相撲解説者として活躍されている元小結の舞の海秀平氏より「可能性への挑戦」として自身の体験談を話され会場は同氏のトークで笑いに包まれた。祝宴では京都祇園の舞妓より祝いの舞が披露され参加者同志は皆で誕生100周年を祝った。トモエ化成誕生100年！改めておめでとうございます。今後の益々の弥栄を祈念致します。

2020年東京オリンピック　マラソン・競歩の札幌開催

北海道は例年より初雪は遅く一時は溶けてしまったが、今年も雪の季節が訪れた。そんな北海道では、2020年東京オリンピックでマラソンと競歩の開催地が札幌に決定し注目されている。コースは前半20㎞が決定し、後半については組織委員会と国際競技団体の間で検討が続けられている（12/5現在)。決定したコースは北海道マラソンのコースがベースになっていて、テレビ塔や時計台、すすきの、道庁の赤レンガ庁舎など札幌を代表する観光名所を走り抜け、街の魅力をアピールできると期待されている。

例年、同時期には大通公園で「さっぽろ大通りビアガーデン」が開催されているのをご存じだろうか。夏の風物詩となっているイベントで、2019年は116万人の集客があり、会場内には約1万3,000席もある大変賑わうイベントだ。7月19日～8月16日までの開催されており、オリンピック期間と重なる為（競技は8/6～9に実施)、ビール片手にオリンピック観戦とは贅沢な感じであるが、例年以上の更なる混雑が懸念される。また、8月はプロ野球やＪリーグのサッカーも真っ最中であり、札幌ドームをホームにする「北海道日本ハムファイターズ」や「北海道コンサドーレ札幌」の試合もあり、いつにも増して賑わう時期でもある。夏休みのこの時期は観光シーズンであり、宿泊施設や飛行機も予約が取れないか、空いていても価格が高騰しており、仕事で来られる方にとっては宿泊先を確保するのが至難の業かもしれない。

東京都はマラソン・競歩のコースにおよそ300億円かけて遮熱性舗装を整備してきた。また交通緩和に向け時差出勤・テレワーク・休暇取得の推奨・物流の抑制など「スムーズビズ」の実験を実施してきた。これらは大規模な交通規制があるこれら競技の開催を想定しての試みであるが、札幌市ではこれらを実証する時間があまり無い。移転のカギとなった気温はどうかといえば、例年7月末～8月上旬の気温が東京に比べ5度～6度低く湿度も東京より低く選手にとってはよりよい条件で競技に臨めるかもしれない。しかし、今年の札幌は最高気温が30度超え、熱帯夜も3日連続で東京よりも気温が高い日もあり、天候ばかりは当日にならないと分からない。

札幌市は2030年の冬季オリンピック招致を表明しているが、開催まで一年を切った中で課題をクリアして成功させれば冬季オリンピックの実現も近くなるかもしれない。「北海道の魅力、札幌の魅力が盛り込まれるようなコースになることを期待したい」と五輪相が述べたように私たちも期待している。（札幌支店）

東京オリンピックのマラソンと競歩は開始時間が早朝ということもあり、通勤前に途中下車して観戦してから出社するのを楽しみにしていた方も多かったのではないでしょうか。チケットが入手困難な中、沿道から無料でオリンピックを味わえると思っていたので少し残念ですが、テレビの前から応援したいと思います。

編集事務局：南部、助川
電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp　URL http://www.mcagri.jp